



災害が発生したら

正確な情報を収集する

- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意。
- むやみに動かず安全を確認。
- 非常口やドア等を開けて避難口を確保。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に。
(火を扱っている場合は、身の安全を確認後火の始末)
- エレベーターを使用せず階段で避難。
(本学のエレベーターは地震が発生した場合、自動的に停止するシステムになっています。)
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動。
- 負傷者の救護や初期消火に協力。
- 家族との安否確認および大学へ安否連絡。

地震発生直後は裏面へ



大学への連絡方法

—安否確認システムの活用—

安否確認システムとは？

大地震が発生した際、皆さんの安否状況を大学へ連絡していただくものです。本学では、「Yahoo! 安否確認サービス」を用いた、安否確認システムにて運用しています。

大学への連絡方法

大地震発生後、「Yahoo! 安否確認サービス」から、皆さんが登録した携帯電話やスマートフォン等の「個人メールアドレス」宛て、及び大学から付与された「専修大学 Gmail アドレス」宛てにメールが配信されます。ついては、そのメールにリンクされている画面に安否状況を登録してください。

「個人メールアドレス」の登録

学内ネットワークが停止した場合、「専修大学 Gmail アドレス」の利用が困難になる可能性がありますので、「個人メールアドレス」の登録をお願いします。なお、次のQRコードから、「個人メールアドレス」を登録することが可能です。



日頃の準備

大地震の発生を防ぐことはできなくても、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どんな備えが必要か考えておきましょう。

- 避難場所の確認 (大学付近および自宅周辺等)
- 家族との連絡方法および待ち合せ場所の確認
- 災害用伝言サービスの確認と登録 (メール宛先等の事前登録が必要)
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認 (災害時徒歩約 2.5 km /h)
- 緊急時メモの作成・記入
- 具体的な情報収集手段および緊急避難場所等の確認 (大学および通学途中)
- 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認
- 大学および友人等への連絡方法の確認およびリスト整備

本マニュアルは専修大学のホームページよりプリントアウトできるので、ご家族にも事前にお伝えください。
<http://www.senshu-u.ac.jp/>

また、スマートフォン・携帯電話にも対応しておりますので、保存してください。ただし、緊急時はスマートフォン・携帯電話の充電が切れることもあるので、ポケットマニュアルも合わせて携帯してください。
※インターネット接続時にパケット通信料がかかります。



緊急避難アイテム

日頃から準備・携帯しておく便利な物

- | | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 現金 (小銭も) | <input type="checkbox"/> 学生証 (免許証なども) |
| <input type="checkbox"/> 健康保険証 | <input type="checkbox"/> アドレス帳 |
| <input type="checkbox"/> タオル・ばんそうこう・包帯 (家族、友人の連絡先を記入) | <input type="checkbox"/> 雨具 (カッパなど) |
| <input type="checkbox"/> 手回し充電ラジオ・ライト | <input type="checkbox"/> ティッシュ・ウエットティッシュ |
| <input type="checkbox"/> 携帯充電用 USB ケーブル | <input type="checkbox"/> 非常用保温アルミシート |
| <input type="checkbox"/> 非常用保溫アルミシート | <input type="checkbox"/> チョコレート・あめなど |
| <input type="checkbox"/> ポリエチレン製ごみ袋 | <input type="checkbox"/> 油性マジックペン |

その他非常時に必要なアイテム

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 貯金通帳 | <input type="checkbox"/> 印鑑 |
| <input type="checkbox"/> 常備薬とその処方箋 | <input type="checkbox"/> 上着・下着・靴下 |
| <input type="checkbox"/> 運動靴 | <input type="checkbox"/> リュック |
| <input type="checkbox"/> 卓上コンロ | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |
| <input type="checkbox"/> ひも・ロープ | <input type="checkbox"/> ろうそく |
| <input type="checkbox"/> 予備電池 | <input type="checkbox"/> 缶切り・栓抜き |
| <input type="checkbox"/> スリッパ | <input type="checkbox"/> 洗面用具 |
| <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ | <input type="checkbox"/> 非常用食料・水 |

memo

※ 記入は油性のペンを使用してください。



家族への連絡方法

NTT災害用伝言ダイヤルサービス

地震など大災害発生時に、安否確認などの電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合、提供されるサービス。

伝言の録音 伝言の再生

① **171** へ電話をかけます。
ガイダンスが流れます。

② **1** **2**

③ 市外局番 + 自宅電話番号 市外局番 + 被災地の方の電話番号

市外局番 電話番号 事前に記入しておきましょう

※被災地の方も、被災地以外の方も利用方法は同じです。

- 利用可能な端末 / NTTの一般電話、公衆電話、携帯電話
- 蓄積伝言数 / 1 電話番号あたり 1~10 伝言
- 録音時間 / 1 伝言 30 秒以内
- 伝言保存期間 / 2 日間 (48 時間 ※ 自動消去)

事前の登録が必要です! (事前にテストをしてください)

携帯各社の災害用伝言板サービス

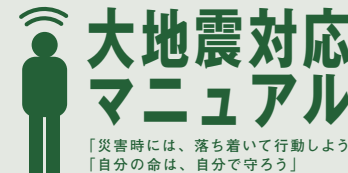
大規模災害時に携帯電話から安否確認 (安否情報の登録) ができる災害用伝言板サービスです。

あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールでお知らせする機能も提供されます。また、インターネットからも安否情報の確認が可能です。

各社の QR コードはこちら



- | | |
|-----------------|---|
| NTTドコモ | http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi |
| au | http://dengon.ezweb.ne.jp/ |
| ソフトバンク | http://dengon.softbank.ne.jp/ |
| Y!mobile | http://dengon.ymobile.jp/ |



大地震対応 マニュアル

「災害時には、落ち着いて行動しよう」
「自分の命は、自分で守ろう」

SENSHU UNIVERSITY

緊急時パーソナルメモ

氏名

学籍番号

学部

学科

緊急連絡先

住所

電話番号

持病 あり なし 常用薬 あり なし

アレルギー あり () なし

自宅近くの避難場所

家族との待ち合せ場所

家族と共有しておきましょう

※記入は油性のペンを使用してください。

地震発生直後

揺れがおさまったら

落ち着いたら①

落ち着いたら②



地震発生

身を守る

POINT ▼

今いる場所は
本当に安全？

YES
その場所を
動かない

NO
避難場所へ
避難

POINT ▼



家族との 安否確認

POINT ▼

自宅に歩いて
帰れる？

YES
自宅へ

NO
避難場所へ

**大学へ
安否連絡**

POINT ▼



大学にいるとき

- 窓や棚、ガラスなど割れたり中のものが飛び出しそうなものから離れる。
- 机の下などにもぐるか、バッグ・衣類などで頭を覆うなどして、落下物から頭と手足を守る。
- 余裕があれば、ドア付近にいる人は、ドアを開け、出口を確保する。
- 実習中などで周囲に危険なものがある場合は、すみやかにその場から離れる。
- 広場やグラウンドなど、落下物がない場所にいる場合は、その場で座り込み揺れがおさまるのを待つ。

自分自身の心構え

- 冷静に、落ち着く。
- 建物の傾き、壁のひびなどを確認。
- 火災が起きていないか？火災の場合は自分の身が安全な範囲で周囲の協力を得ながら初期消火。また、消火が困難と判断した場合は、火から離れる。
- 負傷者はいないか？負傷者がいる場合は安全な範囲で周囲の協力を得ながら応急手当をし、事務局へ連絡。
- 余震の可能性もあるため、あわてずしばらく様子を見る。
- ガラス、黒板、ホワイトボードなどが倒れるおそれがなく、天井からの落下物が無いと確認できた場合は、動かない方が安全である。

行動に移る時の注意点

- 火災の場合は煙を吸わないよう、タオルなどで口を覆う。
- 移動する場合は、教職員の指示により、エレベーターを使わずに階段で移動する。

大学を基点とした避難場所

避難場所は、広く、火災による延焼のおそれがないところが適しています。大学ではあらかじめ以下の場所を避難場所として想定していますが、地震時の状況により安全な場所へ避難してください。

神田校舎避難場所

- 北の丸公園

生田校舎避難場所

- 生田緑地
- 10号館前広場
- 北グラウンド
- 西グラウンド

※近くの安全な避難場所に避難して下さい。

帰宅する？大学に残る？

余震がおさまらず落ち着いたら、自宅に帰るか検討する。交通機関が動いていない場合は歩いて帰宅することになる。その場合の目安は20km。20kmよりも遠い人は避難場所へ。また、チェーンメールなどに惑わされず、テレビ・ラジオなどで正確な情報を収集しましょう。

※災害時交通機関が長時間不通となった場合に、徒歩で帰宅する目安の距離は20km以内とされている。



通学中

- 周囲の状況に注意し、身の安全の確保を最優先とする。
- 塀、電柱、自動販売機などから離れ、落下物にも注意する。
- 「帰宅するか」「登校するか」または、「最寄りの安全な場所に避難するか」は自分で判断してください。

- 被害状況を正しく把握する。
- 事前に家族と相談して決めた避難場所に移動する。ただし、被災場所やその場の状況によっては安全を最優先し、別の避難場所に移動する。
- 避難中は警察や消防の指示に従う。

家族の電話番号

-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-

帰宅困難者10カ条

- ・備えず騒がず状況確認
- ・携帯ラジオをポケットに
- ・作っておこう帰宅地図
- ・ロッカーあけたらスニーカー（防災グッズ）
- ・机の中にチョコやキャラメル（簡易食料）
- ・事前に家族で話し合い（連絡手段・集合場所）
- ・安否確認、ボイスメールや速くの親戚
- ・歩いて帰る訓練を
- ・季節に応じた防寒準備（カッパ・携帯カイロ・タオルなど）
- ・声を掛け合い、助け合おう

- 多くの人が一斉に帰宅すると各所で混雑が発生するため、余裕を持つことも大切。周りの状況を確認してから帰宅しましょう。
- 災害時の歩行速度は約2.5km/h程度、10kmは4時間を要することになります。
- 日没後の行動は危険です。夜間は犯罪に巻き込まれる可能性もあるため、1人での行動は避けましょう。

月日	日の出	日没
3月20日	05:45	17:53
6月20日	04:25	19:00
9月20日	05:27	17:41
12月20日	06:46	16:31

※悪天候は1時間早く暗くなります。